

悪性胆道狭窄に対する胆管金属ステント留置後の非閉塞性胆管炎のリスク因子に関する観察研究のお知らせ

【研究の目的と意義について】

現在、自己拡張型胆管金属ステントは、胆道癌による胆管狭窄に対する緩和治療目的に用いられています。胆管金属ステント留置後、腫瘍の増大によるステント内腔やステント辺縁の胆管の閉塞による閉塞性胆管炎の発症は、化学療法の遅れや胆管金属ステントの機能不全につながるため、主要な問題の一つとして認識されています。しかしながら、臨床現場ではステントの閉塞がなくても急性胆管炎が起こることはしばしば経験されるにも関わらず、非閉塞性胆管炎を発症する患者の成因や予後に関しては、過去にも報告が少なく、明確になっていないのが現状です。

本研究の目的は、胆道癌による遠位胆管狭窄に対して、自己拡張型胆管金属ステントを留置された症例を解析し、非閉塞性胆管炎を発症するリスク因子、またその予後への影響を検討するものであります。

【対象者について】

2011年4月1日から2016年4月30日までの期間に、当院にて遠位悪性胆道狭窄に対し、自己拡張型胆管金属ステントを留置された方となります。

【研究の方法について】

患者様の診療情報について電子カルテより調査・抽出させて頂き、非閉塞性胆管炎を発症するリスク因子、またその予後への影響を検討します。

【プライバシーの保護について】

データ収集の際には、患者さん個人を特定しうる情報（個人情報）は院内で厳重に管理し、個人が特定されないよう匿名化した上でデータ収集、解析を行いません。この取り組み、研究の成果は学会や医学雑誌などで発表されることがありますが、その際にあなたのお名前や身元などが明らかになることはありません。

また、この取り組み・研究は当院の倫理委員会の承認を得て、患者さんの権利が守られていることや医学の発展に役立つ情報が得られるであろうことが、複数の専門家により認められています。

本研究に関してご質問がある方や、対象となる方でご自身のデータが研究に利用されることを拒否される場合は、お手数ですが下記医師に連絡・相談頂ますようお願いいたします。

平日 9時~17時 近くの医療スタッフにお声掛け頂きますようお願いいたします。

【実施体制】

主任研究者	田附興風会医学研究所北野病院	消化器センター内科部長	八隅秀二郎
副主任研究者	田附興風会医学研究所北野病院	消化器センター内科副部長	栗田亮
研究責任者	田附興風会医学研究所北野病院	消化器センター内科	山川康平

田附興風会医学研究所北野病院 消化器センター内科

〒530-8480 大阪府大阪市北区扇町 2-4-20 TEL 06-6312-1221 FAX 06-6361-0588